

【研究課題名】

ライプニッツにおける幸福と医学

寺嶋雅彦

<研究課題の大きな目的>

本研究課題の目的は、初期近代西欧の思想家 G. W. ライプニッツ（1646–1716）における「幸福（至福）」の概念を明らかにした上で、人間にとって目指されるべき幸福な生において医学はどのような役割を果たすのかを明らかにすることである。

<研究課題の背景、既存の研究の問題点、研究課題の詳細な目的>

このように目的を設定した背景には、Justin E. H. Smith の研究がある。彼は、「初期近代の医学的幸福主義」（“Early Modern Medical Eudaimonism”）という題目の下、デカルトやライプニッツといった初期近代西欧の哲学者たちにおいて、医学的探求や健康・長寿といった概念は、彼らの哲学的構想である良き生の現実化をもたらすという点で重要な位置を占めていたことを提示している。Smith はとりわけ、ライプニッツにおける医学的思索について論じており、幸福と医学の関わりについて俯瞰図を描くことに成功している。

ところが、幸福や健康・長寿という概念の内実、さらに幸福と医学とをつなぐ理路など、細かな論点一とはいえライプニッツの医学的な思索を彼の思想体系のうちに位置付けるためには鍵となる論点一の検討が欠けているために、漠然としたものにとどまっているという問題点が残る。

そこで、本研究課題では、上述した問題点を解消することを目指した。その手がかりは、ライプニッツが『人間知性新論』において、医学は私たちの幸福に役立つものとして、実践哲学のうちに入れることができると構想していること、また、医学という学科は「人間身体の健康 *santé* や体力 *vigueur* や完全性 *perfection* に関わる重要な点」を扱うと述べていることである。この着眼点に基づいて、ライプニッツにおいて「幸福」の実現—すなわち良き生の現実化—とはそもそもどういったものであるのか、また、その幸福という概念は、人間身体の健康、体力、完全性を対象とする医学という学問のあり方およびその知識の活用とどのように関わりうるのかを明らかにすることを目論んだ。

<研究成果の概要>

本研究課題の目的を達成するため、具体的には、以下の3点に取り組んだ。第一に、ライプニッツが「幸福」や人間身体の「健康、体力、完全性」をどのようなものとして捉えている

のかを明らかにすべく、アカデミー版ライプニッツ全集第6系列第3巻に「幸福な人生」(De Vita Beata) という表題の下納められているパリ期の6つの草稿や、ライプニッツに関する事典 (*Historical Dictionary of Leibniz's Philosophy* "Happiness": *Leibniz Lexicon* "Beatus(Béatifique)", "Bonheur", "Felicitas(Felix)") に掲載されている用例箇所を中心に検討した。

第二に、ライプニッツにおける「幸福」についてより広い観点から考察するために、種々の2次文献を検討した (David Blumenfeld, "Perfection and happiness in the best possible world": Gregory Brown, "Leibniz's Moral Philosophy": Paul Rateau, *Leibniz et le meilleur des mondes possibles: Dictionnaire de l'académie française(1694)* "félicité", "bonheur": 長谷川宏『幸福とは何か』)。

第三に、ライプニッツにおいて幸福と医学とが繋がりうる理路は「完全性」にあることを確認しつつ、「完全性」のあり方に沿って以下2つの点から整理することができるという仮説を立てた。一つ目は、医学的知識の活用によって人間の身体の完全性を保存し、増大させることが(健康である人の)幸福につながるという理路である。二つ目は、人間の身体的目的と原因を理解するという医学的な知識の探究によって精神を高め、究極的には人間の身体を作り出した神の完全性を考えることになり、そこから持続的な喜びとしての幸福を得るという理路である。

<成果の公表>

本研究の成果は、ライプニッツ協会 2020 年度春季大会で発表する予定だったものの、大会の開催そのものが中止になってしまったため、未発表のままである。この研究課題に対しさらなる検討を加えつつ、論文として学会誌に投稿する予定である。また、関連する研究として、「ライプニッツにおける医学の構成要素とその学問的位置づけ」(『多元文化』、第9号、37(一六〇)-51(一四六)、2020年)を公表した。

<謝辞>

本助成の選考および運営のために尽力してくださった先生がたに心より御礼申し上げます。